

「オノマトペ」を考える

オノマトペを多角的に**知る**
オノマトペを**楽しむ**
オノマトペを**教えたくなる**

「オノマトペ」?

「オノマトペ」は日本語に独特?
「オノマトペ」の定義は?
「オノマトペ」といえば…?

言語	オノマトペの数
韓国語	8000語
日本語	2200語
英語	1500語
ドイツ語	541語

西アフリカや東南アジアの
地域のなかには
5000語以上のオノマトペを
持つ言語もある

村元麻衣 (2006) 「ドイツ語のオノマトペに関する一考察 -音韻特徴と意味特徴を中心に-」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』
<https://core.ac.uk/download/pdf/290206968.pdf>

丹野 (2005)

- オノマトペとは「音による命名、音自身が名になる」という意味がある。このような意味合いからすると「あるもの、ある現象」を音によって指示すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま写すこと、と定義することができる。
- オノマトペの**狭義**の定義としては、音響世界の模写を主とする**擬音語**、音響世界の声を模写する**擬声語**がある。
- また**広義**の定義としては、事象の状態を象徴する**擬態語**である。
- オノマトペを日本語で言えば、「**擬声・擬音、写生語、象徴語、擬容語、象徴音、語音象徴、声喩、音声象徴、音画など**」という。

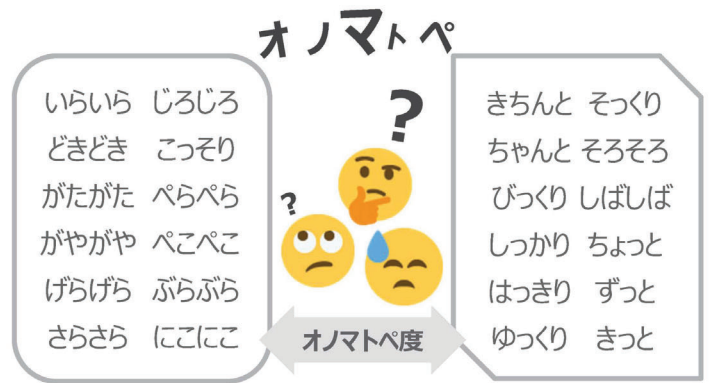
丹野真智 (2005) 「オノマトペ(擬音語・擬態語)を考える : 日本語音韻の心理学的研究」あり出版

- 猫が **ごろごろ** のどをならす
- 雷が **ごろごろ** 鳴る
- 丸太が **ごろごろ** 転がる
- 日曜日に家で **ごろごろ** している
- 目にゴミが入って **ごろごろ** する

「オノマトペ」

擬声語
擬音語
擬態語
擬容語
擬情語

e-Japan国立国語研究所「日本語を楽しむ1」コラム - 「擬音語・擬態語」にはどんな種類がある? - https://www2.ninjal.ac.jp/Onomatopoe/column/nihongo_1.html



Tweemoji by Copyright 2021 Twitter, Inc and other contributors is licensed under CC-BY 4.0

どのような語をオノマトペと認定するのかという**範疇化の問題**であるが、
実はこの問題は母語話者であっても各人の語感によってオノマトペと認識し
ている範囲がかなり異なるという調査結果もあり**簡単ではない**

「オノマトペ」

知る

型

文法

型

オノマトペ きほんの「き」

★語基／語根 (CV、CVCV)

※C: consonant, V: vowel

地域

時代

例：

1 語基	ふ	2 語基	ころ
	FU		KORO

1 語基

ふ

FU

2 語基

ころ

KORO

- + っ 急に始まる／終わる
 - + り ゆったり、静かに
 - + ん 余韻 (よいん)
 - + V 動きが持続
長音
 - × 2 動きの連続性 ※オノマトペに連濁は起こらない
繰り返しい、豊語
- 交替形** からころ、あたふたetc.

角野真一 (2007) 『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』

文法

(統語的特徴)

様態副詞／「+する」がもっとも一般的

中・上級教科書、教材に出現したオノマトペ全体の80% (三上2007)

- 助詞「と」を伴う
- +「り」「×2」 ⇨ 「と」が任意のことが多い
交替形 (4拍) 含む
- +「っ」「ん」 ⇨ 「と」が義務

三上京子 (2007) 『日本語オノマトペとその教育』早稲田大学博士學位申請論文

◆ +「り」「×2」

- はっきりわかった
- はっきりとわかった
- からころ音を立てながら、
- からころと音を立てながら、

「と」が任意

◆ +「っ」「ん」

- 煙がぱつとあがると
- 杯をぐっと干して
- ポンとすずかな音を立てて
- ごろんと横になって

「と」が義務

田守有那、ローレンス・スコラップ (1999) 『オノマトペ—形態と意味—』

地域

オノマトペにも方言がある

きときと

はかほか

にやにや



- 「り」 ⇨ 「ら」 (津軽方言)
- 柔らかさや広がりといったニュアンスが付加される

「ばたつと転んだ」

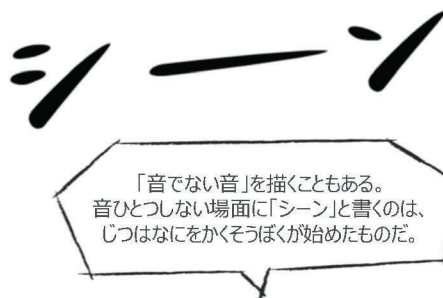
- (a) バダッテ オッケツタ 動作や音にスピード感や激しさ
- (b) バダラッテ オッケツタ 動作や音に鈍さを感じられる

時代

一般語彙と同じく、時代とともに変化する

- 「ただ今や過去聖霊は、蓮台の上にてひよと吠え給ふらん」 (『大鏡』道長下)
- 「山ふし はあ。又こりや。鳴かざるまい。びよびよ。」 (『狂言記』巻三)
- 「わんわん おともいたませう」 (『桃太郎宝蔵入』)
- ほめれば目を緑色に点滅させ、ピロピロビーと鳴く。 (朝日新聞2001年1月1日)

- 『源氏物語』 (擬態オノマトペ)
 - 「あざあざ」 色彩が鮮明で目の覚めるような派手やかさ (紫の上)
 - 「けざけざ」 すっきりと際立つ感じの美しさ (玉鬘)
 - 「おぼおぼ」 ぼんやりしていること (浮舟)
 - 「たをたを」「なよなよ」「やはやは」



山口神典 (2002) 『犬はひなと鳴いていた〜日本語は擬音語・擬態語が面白い〜』 (光文社)

手塚治虫 (2016) 『マンガの描き方-動画制作の長編まで-』 手塚治虫ファン・Kindle マガジンを発行してFont: https://cidfont.com/2017/08/20/mml129_3/

いっしょに考えたい

「オノマトペ」

の音象徴
おんしょう ちよう

音象徴

ある音声が、たまたまそれを含む特定の語の固有の意味とは別の、象徴的な意味、すなわち一般的に想定されている**語と意味の慣習的な関係を超越する意味**、を表すことがある。これを「音象徴」と言う。

言語音が特定のイメージと有縁的に結び付く現象



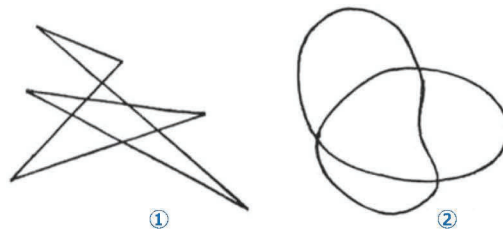
田守育郎、ローレンス・スコップ (1999) 『オノマトペ-形態と意味-』

mal mil



SAPIR, Edward (1929). "A study in phonetic symbolism", Journal of experimental psychology, 12, 225-239

maluma takete



ワルフガング・カーラー (1929) 『ゲシュタルト心理学』/KÖHLER, Wolfgang (1929) "Gestalt Psychology"

母音	/a/>/o/>/e/>/u/>/i/ (大きい>小さい)
/p, b/	張った表面を (で) たたく、破れる、破れそうに張った状態
/t, d/	張力がそれほどない表面を叩いたり、突いたりすること
/k, g/	硬質の表面にあたる音・様子。動作の厳しさ、きつさ、確実さ
/s, z/	抵抗のない表面を滑る様子。順調さ、滑らかな運動。
/n/	つかみどころがない。実体がはっきりしない
/y/	揺れや頼りなさ
/h/	空気の流れ、息
(濁音)	大きい、強い、重い



など

浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペ』くろしお出版 / Hamano, Shoko (1998) "The Sound-Symbolic System of Japanese" くろしお出版
川原繁人 (2017) 『あざいはいの大きい? - 音楽教で学ぶ音声学入門』くろしお出版

- 第1子音が第2子音かで、音象徴の意味するところが変わる

「すすく (suku suku) 」
「くすす (kusu kusu) 」

「とくとく (toku toku) 」
「こつこつ (kotu kotu) 」

	第1子音	第2子音
/k, g/	硬い表面	空洞、上下、内外の動き
/t, d/	張りつめていない表面	打撃、接着
/s, z/	流動体、滑らかな表面	摩擦
/p, b/	張りのある表面	破裂

藤岡晴夫 (2017) 『オノマトペの謎—ピカチュウからモンスターまで』岩波書店

● 文法形式にも音と意味に有縁な関係があるのではないか

口蓋音 (k, g) :

心理的な距離感 <-引き込み>

鼻音 (n, m) :

相対的な距離のなさ <+引き込み>

「の」	対	「が」
「ので」	対	「から」
「の」	対	「こと」
「のに」	対	「けれど」
「の」	対	「か」
「のだ」	対	「ことだ」
「も」	対	「か」
「に」	対	「から」

牧野成一 (1999) 『音と意味の関係は日本語では有縁か 鼻音 vs. 口蓋音と文法形式のケーススタディ』言語学と日本語教育 実用的言語理論の構築を目指して26, 108-116出版

● 「音象徴の普遍性」についての議論 1

中・英・韓・日の話者を対象に「大きさ」のイメージについての実験 (篠原・川原 2012)

共通の音象徴反応を引き起こした (通言語的)

恣意的に結びつけた音と意味の組み合わせが言語記号の中心部分を占めていることには変わりはないが、少なくとも、**語における音と意味の関係は完全に、あるいは本質的に恣意的であるとする考えは、再度注意深く吟味する必要がある**

篠原和子・川原英人 (2012) 『第2章 音象徴の言語普遍性』オノマトペ研究の射程 -近次自と意味J43-57
 平田佐穂子 (2013) 『第3章 音象徴の感覚一致の普遍性』オノマトペ研究の射程 -近次自と意味J59-75

● 「音象徴の普遍性」についての議論 2

音象徴語の言語普遍的側面は**同一の母語話者間でのみ共有される限定的なもの**である (飯田2012)

音象徴語は特定言語の**特定語彙として意識的に学んでいく必要がある**
 日本語学習者が経験的・直感的に音象徴語を学ぶことによって、音象徴語の意味を誤って理解してしまう (飯田ほか2011)

⇒ 状況との結びつきがわかるマンガ・アニメが有効 (中国人学習者)

飯田尚徳 (2012) 『音象徴語をめぐる言語普遍性と異質性』『ことばの科学』25, 21-36
 飯田尚徳, 玉岡真津彦, 初相鶴 (2012) 『中国人日本語学習者の音象徴語の理解』『日中言語研究と日本語教育』46-54

宮沢賢治の

非慣習的
(辞書の見出し語にない)

「オノマトペ」

楽しむ



クイズ

- ① まわりの山は、**…うるうる** もりあがって、 「どんぐりと山猫」
- ② 月光の虹が **もかもか** 集りました 「やまなし」
- ③ 誰か屋根裏を **こっこつ** と叩くものがあります 「ゼロ弾まじーシュ」

a. こっこつ b. もかもか c. うるうる

◆ 清音⇄濁音

時計が**がちつ**と鳴りました。 「耕耘部の時計」
(がちつ)

◆ 濁音⇄清音

ビールのも、お茶のも…**かぶつ**と呑んで 「山男の四月」
(かぶつ)

◆ 「あ」⇄「い」

戸を**びたん**と閉めました。 「カイロ同長」
(びたん)

◆ 「い」⇄「あ」

胸が**どかどか**なってくるのです。 「風の又三郎」
(どかどか)

田守有啓 (2014) 『賢治オノマトペの謎を解く大塚監書店』

【やってみよう】

文を読んで、**■**に入るオノマトペを考えてみましょう！

それからもう何時だかもわからず弾いているかもわからずごうごうやっていますと誰か屋根裏をこっこつと叩くものがあります。
 「猫、まだこりないのか。」
 ゴーシュが叫びますときななり天井の穴から**■**と音がして一疋の灰いろの鳥が降りて来ました。床へとまったのを見るとそれはかっこうでした。



◆ 音を入れ替える

しっぽのはじだけ**ぼちより**染めて 「林の底」
(ちよびり)

◆ 使う場面を変える

まっ青な**つるつる**した空 「なめとこ山の熊」
(つるつる)

◆ ???

かぶかぶ笑う 「やまなし」
(ぶかぶか?)

田守有啓 (2014) 『賢治オノマトペの謎を解く大塚監書店』

「ゼロ弾まじーシュ」https://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/470_15407.html

出てきたオノマトペ

ごそと	がさごそ	ほらんと	ぎぎっ
ざわっと	ことと	つーと	ググッ
かさこそ	ぱたっと	びつと	ぎつとんとん
ことり	すーと	がざぐざ	
もさもさ	はらんと	じょじょ	
もそもそ	こかっ	ボタッ	

Tweemoji by Copyright 2021 Twitter, Inc and other contributors is licensed under CC-BY 4.0

「オノマトペ」

教える

■グループワーク■

「オノマトペ」をテーマにしたミニシラバスの作成

短期コース、又は毎回の授業に入れるミニレッスンのシラバスを考えてください。(A4の紙に大きい文字でまとめてください。紙芝居を作る気分で)

- (1) 学習者：教育段階、年齢、ニーズ、レベル、クラスサイズ等
- (2) 短期コース/ミニレッスンの内容：
 - 時間/回数
 - 目標
 - とりあげる項目（オノマトペ、オノマトペにまつわるトピック）
 - 評価の有無（ある場合は、どんな評価？）

参考資料

- 飯田高穂 (2012) 「音韻的観点から見た日本語の音韻的個性」『言語科学』25, 21-36
- 飯田高穂、玉岡純子 (2012) 「中国人日本語学習者の音韻的個性」『日中言語研究』15, 46-54
- 角田真一 (2007) 『日本語オノマトペの音韻的・音韻的体系性について』くろしお出版
- 川原繁人 (2017) 『おは！おは！おは！おは！』音韻的観点から見たオノマトペの体系性
- 塚本幸博 (2017) 『オノマトペの謎——どかちからももてまて』筑波書局
- 坂本幸博 (2015) 『オノマトペの謎——どかちからももてまて』筑波書局
- 田守育啓 (2014) 『オノマトペの謎を解く』大塚書局
- 丹野英樹 (2005) 『オノマトペの謎を解く』大塚書局
- 手塚出典 (2016) 『オノマトペの謎を解く』大塚書局
- 漢野子 (2014) 『日本語のオノマトペ』くろしお出版 / Hamano, Shoko (1998) "The Sound-Symbolic System of Japanese" くろしお出版
- 牧野成一 (1999) 『日本語の音韻は日本語では何故か 異音 vs. 口蓋音と文法形式のケーススタディ』言語学と日本語教育 実用的言語理論の構築を目指して くろしお出版
- 三上京子 (2007) 『日本語オノマトペの教育』早稲田大学博士学位申請論文
- 三上京子 (2002) 『日本語教育におけるオノマトペの活用』第7回D-07日本語教育シンポジウム報告・発表論文集
- 村元麻衣 (2006) 『オノマトペに関する一考察——音韻的・音韻的観点から』早稲田大学大学院人間文化研究科人間文化研究
- 山口伸美 (2002) 『オノマトペの謎を解く』大塚書局
- KÖHLER, Wolfgang (1929) "Gestalt Psychology"
- SAPIR, Edward (1929). "A study in phonetic symbolism", Journal of experimental psychology 12, 225-239
- 「ゼロ解読-5-1」(青空文庫) https://www.aozora.gr.jp/cwis/000051/files/470_15402.html
- e-japan国立国際研究所「日本語を教える！JCOM - 「異音韻・異音韻」にどのような種類がある？ -」 https://www2.ninjal.ac.jp/onomatopoeia/column/honono_1.html
- Tweemoji by Copyright 2021 Twitter, Inc and other contributors is licensed under CC-BY 4.0 <https://tweemoji.twitter.com>
- マンガ文字素材Font: https://d4dford.com/2017/08/20/mml29_3/